

早わかり！ 題材計画の作成手順

～小学校 図画工作 第3学年
「のこぎりザクザク生まれる形」を例にして～

1. 指導内容(指導事項)を確認する

- ①本題材が、どの内容のまとまりに該当するかを確認
- ②指導内容と評価の観点との関連を確認

知識 技能 思考・判断・表現

「A表現」(1)イ

絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。

「A表現」(2)イ

絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。

「B鑑賞」(1)ア

身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。

「共通事項」(1)

- ア自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。
- イ形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

2. 題材の目標を設定する

- ①指導内容を基に題材の目標を作成(文末を「～させる」等指導者の立場で、題材に合った文言に変える等)



【知識及び技能】

- 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じなどが分かるようにする。
- 木やのこぎりを適切に使わせるとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

- 木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えさせる。
- 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げさせる。
- 形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもたせる。

【学びに向かう力、人間性等】

- 進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組みせ、つくりだす喜びを味わわせるとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造できるよう指導する。

3. 題材の評価規準を設定する(文末を「～している」や「～しようとしている」に変える)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じなどが分かっている。</p> <p>技 木やのこぎりを適切に使うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</p>	<p>発 形や色などの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</p> <p>鑑 形や色などの組合せによる感じなどを基に、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>態 つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p>

児童に資質・能力を確実に身に付させるために「指導内容」、「題材の目標」、「題材の評価規準」を一貫したものにします。

※ **発** 発想や構想に関する評価規準 **鑑** 鑑賞の能力に関する評価規準

4. 題材の指導と評価の計画を作成する (例) 小学校図画工作第3学年「のこぎりザクザク生まれる形」

時	ねらい・学習活動	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
1	<ul style="list-style-type: none"> のこぎりの使い方を知り、木をいろいろな長さや形に工夫して切る。 のこぎりを適切に扱う。 		技				【観察】
2						態	
3	<ul style="list-style-type: none"> 切った(木片)を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。 			発			【観察】 【対話】 【作品】
4				発			
5	<ul style="list-style-type: none"> さらに木を切って組み合わせるなどしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 作品カードに自分の作品のよさや面白さ、表し方の工夫などについて書く。 	知	技				【観察】 【対話】 【作品】
6	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの作品を見て、感じ取ったり考えたりしたことを友人と話し合いながら、自分の見方や感じ方を広げる。 				鑑	態	【観察】 【対話】 【作品】 【作品カード】

※ 児童の学習状況を把握して指導に生かす。 全員の学習状況を把握し、記録に残す。

5. 題材の指導計画(指導と評価の計画)をもとに、本時の評価規準を具体的ににする 第3時の評価規準「思考・判断・表現(発想や構想の能力)」を例に

形や色などの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。



具体的にする

題材の評価規準をそのまま活用する場合がありますが、子どもの学習状況をつかむには、より具体化することが大切です。



木片の形や木目の方向、模様や色などの組合せによる感じなどを基に、様々な形の木を切ったり組み合わせ直したりして、立ち上がってきたイメージに近づけるために、どのように表すかについて考えている。

【B児童】

角ばった形の木片を集め、大きな塊の周りにくっつけている。木目の方向を気にしながら、長い木片をどこに組み合わせるか考えている。

【C児童】

同じ形の木片を机上にならべて楽しんでいる。

「おおむね満足できる状況」と評価

「努力を要する状況」と評価



OC生徒は、発想の段階で様々な形を組み合わせることで表すことについて理解できていない可能性がある。それに伴って、表したことが十分に立ち上がっていないことが予想される。

木材を切って様々な形の材料を準備させる。いろんな角度から見ながら、積み上げたり接着したりさせて、形の組合せを楽しむ経験を積ませる。